

令和8年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 美術科

改善の重点

- ① 題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、意図に応じて創造的に表すことができるよう、学びの過程を重視した題材の指導計画を作成すること。なお、題材のねらいを生徒と共有するための工夫を位置付けること。
- ② 主題を生み出し表現を工夫することができるようにするために、発想・構想や制作の場面での生徒のつまずきを予想して、具体的な手立てを想定すること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第6節美術の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」に「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。」と示されている。指導計画を作成する際には、題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒が学習の見通しをもちながら主体的に取り組み、学習の過程を振り返ることができるように構成することが重要である。

生徒が意図に応じて創造的に表すことができるようにするためには、多様な表現方法や技能に触れる機会を取り入れ、生み出した主題を基に表現方法を試行錯誤しながら制作できるようにすることが必要である。そのため、作品の完成度のみを評価するのではなく、「どのように考え、工夫し、試行錯誤したのか」という過程を把握し、制作過程における一人一人の構想や表現のよさを適切に評価し励ますことが求められる。その際、評価規準と指導事項との整合性を図り、育成を目指す力を確実に身に付けさせることが重要である。

加えて、生徒が学習の目的を理解できるよう、導入段階で題材のねらいを共有する工夫が必要である。そうすることで、生徒は学びの方向性を理解し、表現や鑑賞に主体的に取り組むことにつながる。

生徒は制作や鑑賞に取り組む中で思考が停滞したり、表現方法や技法の選択に迷ったりすることがある。そのため、発想・構想や制作の場面において生徒がどのようなところでつまずく可能性があるかを想定し、実態を踏まえた具体的な手立てをあらかじめ位置付けておくことが求められる。例えば、発想・構想段階でアイデアが広がらない生徒にはスケッチやイメージマップを活用させたり、参考作品や資料を提示したりすること、技法の選択に悩む生徒には試し描きや ICT 端末を活用する機会を設けたりすることなどの支援が考えられる。こうした支援を行うことで、生徒が主題を生み出し表現を工夫することにつながり、意図に応じて創造的に表す力の育成につながる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 美術科で目指す資質・能力を生徒に確実に育成するために、題材の指導と評価の計画を作成すること。その際、題材の目標と題材の評価規準、各時間の学習活動と評価規準を記載すること。
- ② 題材の指導計画を作成する際に生徒のつまずきを予想して、具体的な手立てを想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 早わかり！題材計画の作成手順（～中学校美術第1学年「花の命を感じて」を例にして～）